

〈いちご〉 ネオアセンチュウ

| 1. パストリア水和剤については、「生物的防除法 4. 天敵資材による防除方法」の項を参照する。 | | | | |
|--|--------|--------------|----|---|
| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
| DC油剤 | I:8A | 作付の10～15日前まで | 1回 | 1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 1)全面処理:耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2)作条処理:は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 |
| D-D | I:8A | 作付の10～15日前まで | 1回 | |
| テロン | I:8A | 作付の10～15日前まで | 1回 | |
| パストリア水和剤 ※1 | | 定植前 | — | 土壌表面に散布し混和 |

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈いちご〉 ネグサレセンチュウ

| 1. マリーゴールドを栽培すると効果がある(1 生物的防除法 (7) 対抗植物による土壌線虫の密度抑制の項を参 | | | | |
|---|-----------|---------------|----|--|
| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
| ネマキック粒剤 | I:1B | 定植前 | 1回 | 全面土壌混和 全面土壌混和 土壌くん蒸 土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。) |
| ネマトリンエース粒剤 | I:1B | 定植前 | 1回 | |
| クロピクテープ | I:8B | | 1回 | |
| ダブルストッパー | I:8A・I:8B | 作付の10～15日前まで | 1回 | |
| ソイリーン | I:8A・I:8B | 作付の10～15日前まで | 1回 | 耕起整地後、30cm間隔のトリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。 |
| キルパー | I:8F | は種又は定植の15日前まで | 1回 | 所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。 |

〈いちご〉 ナメクジ類

1. 鳥獣被害の特徴と対策 VII ナメクジ類・カタツムリ類の防除対策 の項を参照。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|---------|--------|--------|------|------|
| ナメクリーン3 | | 収穫前日まで | 2回以内 | 株元散布 |

〈いちご〉 チャノホロダニ

1. ダニトロンフロアブルは目に入ると痛みがあるので薬剤調製時や散布時には必ず防除メガネをつける。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|--------------|--------|-----------|----|----------------|
| サフオイル乳剤 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 散布 放飼 |
| ダニトロンフロアブル | I:21A | 収穫前日まで | 1回 | |
| システムスワルくんロング | | 発生直前～発生初期 | — | |

※1

| | | | | |
|------------|------|--------|---|----|
| サフオイル乳剤 ※2 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
|------------|------|--------|---|----|

※1 上位作物群「野菜類(施設栽培、ただし、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 ハダニ類

1. 発生初期の防除を徹底する。下葉の枯葉を取り除き、葉裏に薬剤が十分かかるように散布する。
2. 促成栽培用品種の幼苗時やビニール被覆後は葉害が出やすいので、特に高温時の散布を避ける。また、重複散布や肥料との混合散布はしない。
3. 苗床の防除を徹底し、本ぼにハダニを持ち込まない。
4. ナミハダニは特に薬剤感受性が低い。下葉の除去を徹底する。
5. アカリタッチ乳剤、サンクリスタル乳剤、ムシラップ、粘着くん液剤、及びフーモンは、薬液が直接かからないと殺虫効果がない。
6. ダニオーテフロアブルは銅剤との混用は避ける。銅剤散布後は本剤の使用を避ける。本剤散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔を空ける。
7. 天敵の使用に当たっては、「1 生物的防除法 (4) 天敵資材による防除法」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------------|---------------|------------|------|------|
| アグリメック | I:6 | 育苗期 | 2回以内 | 散布 |
| アグリメック | I:6 | 親株育成期 | 2回以内 | 散布 |
| エコピタ液剤 | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| カネマイトフロアブル | I:20B | 収穫前日まで | 1回 | 散布 |
| コロマイト水和剤 | I:6 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| サフオイル乳剤 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ダニオーテフロアブル | I:33 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ダニコングフロアブル | I:25B | 収穫前日まで | 1回 | 散布 |
| ダニトロンフロアブル | I:21A | 収穫前日まで | 1回 | 散布 |
| ダブルシューターSE | I:5・- | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ニッツラン水和剤 | I:10A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| バロックフロアブル | I:10B | 収穫前日まで | 1回 | 散布 |
| ピタイチ | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| マイトコーネフロアブル | I:20D | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| モベントフロアブル | I:23 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| スパイカルEX ※1 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| スパイカルプラス ※1 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| スパイカルプラスUM ※1 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| クムラス ※1 | I:UN/F:M02(M) | — | — | 散布 |
| アカリタッチ乳剤 ※1 | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| フーモン ※1 | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ムシラップ ※1 | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| 粘着くん液剤 ※1 | | 収穫前日まで | — | 散布 |
| スパイデックスバイタル ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| チリガブリ ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| チリトップ ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| サフオイル乳剤 ※3 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| サンクリスタル乳剤 ※4 | | 収穫前日まで | — | 散布 |

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 アザミヤマ類

1. 定植後から施設内に侵入した個体が発生源となるので発生初期の防除を徹底し、その後は侵入防止に努める。
2. 施設内や周辺に発生源となる可能性がある花き類を持ち込まない。また、施設内外の除草に努める。
3. 施設栽培では近紫外線除去フィルムを利用する(物理的防除法の項を参照)。
4. 施設の開口部に防虫網を張る(物理的防除法の項を参照)。
5. 前作に発生した場合は、施設を閉めきり高熱処理と灌水、又は土壤消毒で残存虫を死滅させる。
6. 天敵の使用に当たっては、「生物的防除法 4. 天敵資材による防除法」の項を参照する。
7. ミツバチまたはマルハナバチへの影響期間については「5 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|--------------|----------------|------------|------|------|
| カスケード乳剤 | I:15 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| スピノエース顆粒水和剤 | I:5 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ダブルシューターSE | I:5・- | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ディアナSC | I:5 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ハチハチフロアブル | I:21A/F:39(C1) | 1番花の開花まで | 1回 | 散布 |
| ファインセーブフロアブル | I:34 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| マッチ乳剤 | I:15 | 収穫前日まで | 4回以内 | 散布 |
| モスピラン顆粒水溶剤 | I:4A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| モベントフロアブル | I:23 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| モベントフロアブル | I:23 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| ボタニガードES ※1 | I:UNF | 発生初期 | — | 散布 |
| アカメ ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| ククメリスEX ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| メリトップ ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| スワルスキー ※2 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| スワルスキープラス ※2 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |

| | | | |
|--------------------|-----------|---|----|
| リモニカ ※2 | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| ポタニガード水和剤 ※2 I:UNF | 発生初期 | — | 散布 |
| システムスワルクンロング ※3 | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |

- ※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤
 ※2 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤
 ※3 上位作物群「野菜類(施設栽培、ただし、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 ミカンキョロアザミウマ

1. いちご・アザミウマ類の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------|--------|---------|------|------|
| アードント水和剤 | I:3A | 収穫前日まで | 4回以内 | 散布 |
| マラソン乳剤 | I:1B | 収穫3日前まで | 5回以内 | 散布 |

〈いちご〉 アブラムシ類

- イチゴケナガアブラムシ、ワタアブラムシはイチゴのウイルス病を媒介する。
- イチゴネアブラムシはイチゴの茎や根の上部に寄生し、アリと共生する。初夏に発生が多い。
- 苗床の防除を徹底し本ばにアブラムシを持ち込まない。
- ワタアブラムシは野外で12月中旬まで発生し、換気の際に施設内へ侵入する。新葉等における寄生状況を観察し、初期防除に努める。
- ハウスの開口部に防虫網を張り、有翅虫の飛来を防ぐ（物理的防除法の項を参照）。
- ワタアブラムシは新芽に寄生し薬剤がかかりにくいので5日後に再度防除を行うと効果が高い。
- フーモン、ムシラップ、粘着くん液剤は直接、虫にかかると効果がない。
- 天敵の使用に当たっては、「生物的防除法 4. 天敵資材による防除方法」の項を参照する。
- ミツバチまたはマルハナバチへの影響期間については「ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|--------------------|--------|------------|------|----------|
| ウララDF | I:29 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| チェス顆粒水和剤 | I:9B | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| バリアード顆粒水和剤 | I:4A | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ピタイチ | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ベストガード水溶剤 | I:4A | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| モスピラン顆粒水溶剤 | I:4A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| モベントフロアブル | I:23 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| アドマイヤー1粒剤 | I:4A | 定植時 | 1回 | 植穴土壌混和 |
| モスピラン粒剤 | I:4A | 定植時 | 1回 | 植穴土壌混和 |
| ベストガード粒剤 | I:4A | 定植時 | 1回 | 植穴処理土壌混和 |
| ベリマークSC | I:28 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| モベントフロアブル | I:23 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| モスピランジェット | I:4A | 収穫前日まで | 2回以内 | くん煙 |
| フーモン ※1 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ムシラップ ※1 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| 粘着くん液剤 ※1 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| アフィパール ※2 | — | 発生初期 | — | 放飼 |
| ナミトップ ※2 | — | 発生初期 | — | 放飼 |
| ポタニガード水和剤 ※2 I:UNF | — | 発生初期 | — | 散布 |
| サフオイル乳剤 ※3 F:NC | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| サンクリスタル乳剤 ※4 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |

- ※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤
 ※2 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤
 ※3 上位作物群「野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤
 ※4 上位作物群「野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 コナジラミ類

- 施設の開口部に防虫網を張り、成虫の飛来を防止する。「物理的防除法 4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照
- 薬剤は葉裏に十分量を散布する。
- 天敵の使用に当たっては、「生物的防除法 4. 天敵資材による防除方法」の項参照。
- ミツバチまたはマルハナバチへの影響期間については「5 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-------------------|--------|------------|------|--------|
| ウララDF | I:29 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| コルト顆粒水和剤 | I:9B | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| サフオイル乳剤 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| サンマイトフロアブル | I:21A | 収穫開始3日前まで | 1回 | 散布 |
| ダブルシューターSE | I:5・— | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| チェス顆粒水和剤 | I:9B | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| バリアード顆粒水和剤 | I:4A | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ベストガード水溶剤 | I:4A | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| モスピラン顆粒水溶剤 | I:4A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| モベントフロアブル | I:23 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| モスピラン粒剤 | I:4A | 定植時 | 1回 | 植穴土壌混和 |
| ベリマークSC | I:28 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| モベントフロアブル | I:23 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| ポタニガードES ※1 I:UNF | — | 発生初期 | — | 散布 |
| フーモン ※1 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ムシラップ ※1 | — | 収穫前日まで | — | 散布 |
| エルカード ※2 | — | 発生初期 | — | 放飼 |

| | | | | |
|-----------------|-------|-----------|---|----|
| エンストリップ ※2 | | 発生初期 | — | 放飼 |
| スワルスキー ※2 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| スワルスキープラス ※2 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| リモニカ ※2 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| ポタニガード水和剤 ※2 | I:UNF | 発生初期 | — | 散布 |
| システムスワルクンロング ※3 | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |
| サフオイル乳剤 ※4 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| サンクリスタル乳剤 ※5 | | 収穫前日まで | — | 散布 |

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤

※3 上位作物群「野菜類(施設栽培、ただし、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

※4 上位作物群「野菜類(いちご、トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

※5 上位作物群「野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉コガネムシ類幼虫

1. ドウガネブイブイ幼虫は7月上旬頃から苗床に発生し、8月以降に苗の被害が著しくなる。

2. アオドウガネ幼虫が本ほで発生することがある。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|------------|--------|----------|----|---------|
| ダイアジノンSLゾル | I:1B | 定植前(本圃) | 1回 | 全面土壌混和 |
| フォース粒剤 | I:3A | 植付時(仮植床) | 1回 | 全面土壌混和 |
| ダイアジノンSLゾル | I:1B | ポット育苗時 | 1回 | 育苗ポット灌注 |

〈いちご〉ヨトウムシ

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------|--------|--------|------|------|
| アフファーム乳剤 | I:6 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |

〈いちご〉ハスモンヨトウ

1. ビニールの障壁を設けたり、溝を掘るなどして幼虫の侵入を防止する。32. 老齢幼虫は捕殺に努める。

2. 老齢幼虫は捕殺に努める。

3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛込みを防ぐ。「2 物理的防除法 4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

4. 黄色灯の利用により、発生を軽減できる。「2 物理的防除法 12. 黄色灯を利用した害虫防除法」を参照する。

5. ハスモンヨトウは薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤選定に注意する。また、幼虫の齢期が進むと薬剤に対する抵抗力が強くなるため早期発見、早期防除に努める。

6. ミツバチまたはマルハナバチへの影響期間については「5 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|--------------|--------|-----------------|------|------|
| アタブロン乳剤 | I:15 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| アニキ乳剤 | I:6 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| アフファーム乳剤 | I:6 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| カスケード乳剤 | I:15 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| コテツフロアブル | I:13 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ディアナSC | I:5 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| トルネードエースDF | I:22A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ノーモルト乳剤 | I:15 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ファルコンフロアブル | I:18 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| フェニックス顆粒水和剤 | I:28 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ブレオフロアブル | I:UN | 収穫前日まで | 4回以内 | 散布 |
| ブレバゾンフロアブル5 | I:28 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| マトリックフロアブル | I:18 | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ロムダンフロアブル | I:18 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ベリマークSC | I:28 | 育苗期後半～定植当日 | 1回 | 灌注 |
| エコマスターBT ※1 | I:11A | 発生初期(但し、収穫前日まで) | — | 散布 |
| クオークフロアブル ※1 | I:11A | 発生初期(但し、収穫前日まで) | — | 散布 |
| バシレックス水和剤 ※1 | I:11A | 発生初期(但し、収穫前日まで) | — | 散布 |
| フローバックDF ※1 | I:11A | 発生初期(但し、収穫前日まで) | — | 散布 |

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

〈いちご〉オオタバコガ

1. ミツバチまたはマルハナバチへの影響期間については「5 家畜・ミツバチ・マルハナバチに対する被害防止」の項を参照する。

2. 黄色灯の利用により、発生を軽減できる。「2 物理的防除法 12. 黄色灯を利用した害虫防除法」を参照する。

3. 施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、成虫の飛込みを防ぐ。「2 物理的防除法 4. 防虫網を用いた害虫飛来防止法」を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-------------|--------|--------|------|------|
| アフファーム乳剤 | I:6 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| トルネードエースDF | I:22A | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| フェニックス顆粒水和剤 | I:28 | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |

〈いちご〉萎黄病

1. 土壌消毒は採苗床から定植床まで一貫して行い一時的でも汚染ほに植えないこと。

2. 無病親株を確保し、無病株からランナーを採取するようにする。

- 罹病株（苗も含む）は見つけ次第抜き取って焼却処分する。
- 水田地帯におけるハウス栽培の定植までは、ハウス密閉処理を行う。
- クロルピクリンくん蒸剤のガスはイチゴに影響が大きいので、ガス抜きの際にガスがイチゴの方に流れないようにす。
- ベンレート水和剤、トップジンM水和剤は温度が高いと薬害が出やすい。かん注はよく活着してから行う。
- ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|------------|-----------|--------------------|--------------------------|--|
| キルパー | I:8F | は種又は定植の15日前まで | 1回 | 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。 |
| ガスタード微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する |
| バスアミド微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する |
| トップジンM水和剤 | F:1(B1) | 仮植時及び仮植栽培期 | 3回以内 | 灌水 |
| ベンレート水和剤 | F:1(B1) | 育苗期 | 3回以内 | 灌水 |
| ベンレート水和剤 | F:1(B1) | 本圃定植後(但し、収穫30日前まで) | 1回 | 灌水 |
| クロールピクリン | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| クロピク80 | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| クロピクテープ | I:8B | | 1回 | 土壌くん蒸 |
| ドジョウピクリン | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| ドロクロール | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| トラベックサイド油剤 | I:8F | は種又は植付の21日前まで | 1回 | ・圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のフタリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。 ・薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。 |
| ダブルストッパー | I:8A・I:8B | 作付の10～15日前まで | 1回 | 土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。) |
| ソイリン | I:8A・I:8B | 作付の10～15日前まで | 1回 | 耕起整地後、30cm間隔のフタリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。 |
| クロピクフロー | I:8B | | 1回 | 耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。 |
| キルパー | I:8F | は種又は定植の15日前まで | 1回 | 所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。 |

〈いちご〉 萎凋病

- 萎凋病はパーティシリウム・ダリアの寄生によるもので、本菌はハクサイ、ダイコン、トマト、ナス、キクなどの多数の作物を侵すので前後作に注意する。本病は比較的低温性の菌で秋と春に発病しやすい。
- 無病親株を確保し、無病株からランナーを採取するようにする。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------|--------|--------------|----|-----------------------|
| ガスタード微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する |
| バスアミド微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する |

〈いちご〉 うどんこ病

- 高冷地育苗のものに発病が多いので、育苗地での散布を徹底する。
- 硫黄粒剤の使用にあたっては、電気加熱式くん煙器は温度調節・安全機能を備えた専用のものを使用し、ホットプレートや電球加熱式、ストーブ等の熱源使用は発火事故の危険があるので絶対に行わない。

3. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤連用を避ける。
4. トリフミン水和剤、ルビゲン水和剤、サブロー乳剤、ラリー乳剤、スコア顆粒水和剤、パンチョTF顆粒水和剤、パンチョTFジェットはRACコードが同じ成分を含む。これらは薬剤耐性菌が発生する恐れがあるため、連用を避ける。(1作期3回以内)
5. アフェットフロアブル、パレード20フロアブルは薬剤耐性菌が発生する恐れがあるので同一薬剤として扱い連用しない。
6. モレストン水和剤は開花期以後薬害を生ずることがあるので使用に注意する。
7. ストロビーフロアブルは、「高温多湿の条件下」、「浸透性を高める展着剤の加用」によって薬害を生じる場合があるので注意する。
8. カリグリーンは高温乾燥条件下での散布は果面が焼けるので、石垣イチゴに使用する場合には、特に注意する。
9. ボトキラー水和剤、インプレッションクリア、バチスター水和剤の使用に当っては「生物的防除法2. 拮抗作用を利用した防除方法」の項を参照する。
10. ボタニガードESの使用にあたっては、生物的防除法 4.天敵資材による防除方法のウならびに、5. 抵抗性誘導を利用した防除方法を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------------|------------------|-------------|------|--------------------|
| アフェットフロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| イオウフロアブル | I:UN/F:M02(M) | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| イオウフロアブル | I:UN/F:M02(M) | 親株床初期 | - | 散布 |
| クロスアウトフロアブル | F:50(B6) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| サブロー乳剤 | F:3(G1) | 収穫前日まで | 5回以内 | 散布 |
| サンヨール | F:M01(M) | 収穫前日まで | 6回以内 | 散布 |
| スコア顆粒水和剤 | F:3(G1) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ストロビーフロアブル | F:11(C3) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| トリフミン水和剤 | F:3(G1) | 収穫前日まで | 5回以内 | 散布 |
| パレード20フロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| パンチョTF顆粒水和剤 | F:3(G1)・F:U06(U) | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| フルピカフロアブル | F:9(D1) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ベルコートフロアブル | F:M07(M) | 育苗期(定植前) | 5回以内 | 散布 |
| ベルコートフロアブル | F:M07(M) | 収穫前日まで(生育期) | 5回以内 | 散布 |
| ポリオキシシAL水溶剤 | F:19(H4) | 収穫開始14日前まで | 3回以内 | 散布 |
| モレストン水和剤 | I:UN/F:M10(M) | 収穫前日まで | 2回以内 | 散布 |
| ラリー乳剤 | F:3(G1) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| サンヨール | F:M01(M) | 定植前 | 1回 | 瞬間～5分間苗浸漬 |
| サンヨール | F:M01(M) | 定植前 | 1回 | 5分間苗浸漬 |
| パンチョTFジェット | F:3(G1)・F:U06(U) | 収穫前日まで | 2回以内 | くん煙 |
| フルピカくん煙剤 | F:9(D1) | 収穫前日まで | 3回以内 | くん煙(通常10～15時) |
| 硫黄粒剤 | I:UN/F:M02(M) | - | - | 専用の電気加熱式くん煙器でくん煙する |
| フルピカフロアブル | F:9(D1) | 収穫前日まで | 3回以内 | 常温煙霧 |
| クムラス ※1 | I:UN/F:M02(M) | - | - | 散布 |
| 硫黄粉剤50 ※1 | I:UN/F:M02(M) | - | - | 散布 |
| アカリタッチ乳剤 ※1 | - | 収穫前日まで | - | 散布 |
| グリーンカップ ※1 | F:M01(M)・F: | 収穫前日まで | - | 散布 |
| ハーモメイト水溶剤 ※1 | F:NC | 収穫前日まで | - | 散布 |
| フーモン ※1 | - | 収穫前日まで | - | 散布 |
| 粘着くん煙剤 ※1 | - | 収穫前日まで | - | 散布 |
| インプレッションクリア ※1 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| ボタニガードES ※1 | I:UNF | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| ボトキラー水和剤 ※1 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| マイコタール ※2 | - | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| カリグリーン ※3 | F:NC | 収穫前日まで | - | 散布 |
| バチスター水和剤 ※3 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| ジーファイン水和剤 ※4 | F:NC・F:M01(M) | 収穫前日まで | - | 散布 |

- ※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤
- ※2 上位作物群「野菜類(施設栽培)」の登録薬剤
- ※3 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤
- ※4 上位作物群「野菜類(なすを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉疫病

1. 発病地には連作しない。低湿地での栽培を避け排水を良くする。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-----------|------------------|------------------|---------|----------------------|
| レーバスフロアブル | F:40(H5) | 親株育成期 | 2回以内 | 散布 |
| レーバスフロアブル | F:40(H5) | 生育期(但し、収穫前日まで) | 本圃:2回以内 | 散布 |
| ユニフォーム粒剤 | F:4(A1)・F:11(C3) | 定植時 | 1回 | 作条土壌混和 |
| ガスタード微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す |
| バスアミド微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す |
| ランマンフロアブル | F:21(C4) | 育苗期 | 2回以内 | 株元灌注 |
| ランマンフロアブル | F:21(C4) | 生育期(但し、収穫30日前まで) | 2回以内 | 株元灌注 |
| クロピクテープ | I:8B | - | 1回 | 土壌くん蒸 |

〈いちご〉 角斑細菌病

1. 角斑細菌病菌は、多湿状態になると葉裏の病斑部から粘性の強い病原菌が吹き出て、灌水や降雨により飛散し伝染していく。
2. 発病ほ場の株は親株に使用しない。
3. 軟弱徒長した苗は感染しやすいので、健全な苗の育成に努める。
4. 定植時には葉裏の病斑を確認し、発病株は定植しない。定植後も葉裏の観察を行い発病の早期発見に努める。
5. 発生が少ないときは、発病株を抜き取り処分する。多くなった場合は、病斑に触れないように発病葉を除去する。
6. マルチ、ビニール被覆はできるだけ早く行い、灌水や降雨による拡散を防ぐ。
7. 石垣栽培では点滴灌水で病原菌の飛散を防ぐと共に、換気に注意する。点滴灌水を導入できない場合は、灌水後、ハウス内が多湿にならないように注意する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------|----------|----|----|------|
| コサイド3000 | F:M01(M) | - | - | 散布 |

〈いちご〉 菌核病

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-----------|------------|--------|------|----------|
| スミレックス水和剤 | F:2(E3) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ロブラール水和剤 | F:2(E3) | 収穫前日まで | 4回以内 | 散布 |
| ミニタンWG ※1 | F:BM02(BM) | 定植前 | - | 全面散布土壌混和 |

※1 上位作物群「野菜類(キャベツを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 黒斑病

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------|---------|--------|------|------|
| ロブラール水和剤 | F:2(E3) | 収穫前日まで | 4回以内 | 散布 |

〈いちご〉 じゃのめ病

1. 排水をよくし、密植を避け、肥料切れしないようにする。
2. 病葉は取り除く。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|------------|---------------|--------------------|------|------|
| ジマンダイセン水和剤 | I:UN/F:M03(M) | 仮植栽培期(但し、収穫76日前まで) | 6回以内 | 散布 |

〈いちご〉 炭疽病

1. 炭疽病は高温、多湿で発生が多く、床面の水の流れて広がるので、排水の良い無病地に植付けする。
2. 親株保存床、採苗床は前年の秋に土壌消毒を行う。この時期は地温が低いのでビニールは長期間被覆しておく。本ぼ、採苗床跡に仮植床を設ける時は土壌消毒を行う。
3. 苗で持ち込むことが多いので親株はウイルスフリー苗を利用するか、ウイルスフリー苗から専用親株を増殖して利用する。専用親株は自己苗と一緒にしない。発病ほ場の近くに保存しない。
4. 採苗床では親株にマルチを行い、その下にチューブかん水を行って土壌、親株からの水滴の飛散による伝搬を抑制する。
5. 多発地では採苗床、仮植床はできるだけ雨除けと底面給水を行う、水滴によるまん延を防ぐためかん水はスプリンクラーや高い水圧でのかん水をしない。
6. 株間を広く、風通しをよくする。窒素過多にせず、軟弱徒長を避け充実した苗を育てる。
7. 親株や子株、仮植苗の発病株と隣接株は早期に除去する。生育中の古葉や残さはビニール袋に入れ、密閉処理する。収穫後の株はハウス内で乾燥後処分する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|--------------|---------------|--------------------|--------------------------|--|
| ICボルドー66D | F:M01(M) | 発病前～発病初期 | - | 散布 |
| アントラコール顆粒水和剤 | F:M03(M) | 仮植栽培期 | 6回以内 | 散布 |
| オーソサイド水和剤80 | F:M04(M) | 収穫開始14日前まで | 5回以内 | 散布 |
| オキシンドー水和剤80 | F:M01(M) | 育苗期 | 3回以内 | 散布 |
| キノドーフロアブル | F:M01(M) | 育苗期 | 3回以内 | 散布 |
| ジマンダイセン水和剤 | I:UN/F:M03(M) | 仮植栽培期(但し、収穫76日前まで) | 6回以内 | 散布 |
| セイビアーフロアブル20 | F:12(E2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| デランフロアブル | F:M09(M) | 育苗期 | 2回以内 | 散布 |
| ドキリンフロアブル | F:M01(M) | 育苗期 | 3回以内 | 散布 |
| ベルコートフロアブル | F:M07(M) | 育苗期(定植前) | 5回以内 | 散布 |
| ガスタード微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す |
| バスアミド微粒剤 | I:8F | 仮植又は定植21日前まで | 1回 | 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和す |
| クロールピクリン | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| クロピク80 | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| ドジョウピクリン | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| ドロクロール | I:8B | | 2回以内(但し、床土は1回以内、圃場は1回以内) | 土壌くん蒸 |
| ソイリーン | I:8A・I:8B | 作付の10～15日前まで | 1回 | 耕起整地後、30cm間隔のフリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。 |

| | | | | |
|-------------|-----------|---------------|----|---|
| ディ・トラベックス油剤 | I:8A・I:8F | は種又は植付の21日前まで | 1回 | 圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。 |
|-------------|-----------|---------------|----|---|

〈いちご〉 灰色かび病

- これらの薬剤はトンネル栽培など軟弱に育ったものには薬害を起こしやすいので注意する。
- かん水を少なめにし、多湿を避ける。
- 枯死葉、老化葉は取り除き、敷き藁やマルチを行う。
- FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
- ロプラールくん煙剤とスミレックス水和剤、同くん煙剤は同一薬剤として扱い連用しない。
- アフエットフロアブル、カンタスドライフロアブル、パレード20フロアブルは薬剤耐性菌が発生する恐れがあるので同一薬剤として扱い連用しない。
- カリグリーンは高温乾燥条件下での散布は果面が焼けるので、石垣イチゴに使用する場合には、特に注意する。
- バチスター水和剤、ボトキラー水和剤、インプレッションクリア、エコショットの使用に当たっては、「生物的防除法2. 拮抗作用を利用した防除方法」の項を参照する。

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|----------------|-------------------|------------|------|---------------|
| アフエットフロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| カンタスドライフロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ケンジャフロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ジャストミート顆粒水和剤 | F:12(E2)・F:17(G3) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| スミレックス水和剤 | F:2(E3) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| セイビアーフロアブル20 | F:12(E2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| パレード20フロアブル | F:7(C2) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| フルピカフロアブル | F:9(D1) | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 |
| ポリオキシシンAL水溶剤 | F:19(H4) | 収穫開始14日前まで | 3回以内 | 散布 |
| ロプラールくん煙剤 | F:2(E3) | 収穫前日まで | 4回以内 | くん煙 |
| フルピカくん煙剤 | F:9(D1) | 収穫前日まで | 3回以内 | くん煙(通常10～15時) |
| エコショット ※1 | F:BM02(BM) | 収穫前日まで | — | 散布 |
| グリーンカップ ※1 | F:M01(M)・F: | 収穫前日まで | — | 散布 |
| ハーモメイト水溶剤 ※1 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| インプレッションクリア ※1 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | — | 散布 |
| ボトキラー水和剤 ※1 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | — | 散布 |
| アグロケア水和剤 ※1 | F:BM02(BM) | 収穫前日まで | — | 常温煙霧 |
| ボトキラー水和剤 ※1 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | — | 常温煙霧 |
| カリグリーン ※2 | F:NC | 収穫前日まで | — | 散布 |
| バチスター水和剤 ※2 | F:BM02(BM) | 発病前～発病初期 | — | 散布 |

※1 上位作物群「野菜類」の登録薬剤

※2 上位作物群「野菜類(トマト、ミニトマトを除く)」の登録薬剤

〈いちご〉 芽枯病

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-------------|----------|------------|------|------|
| オーソサイド水和剤80 | F:M04(M) | 収穫開始14日前まで | 5回以内 | 散布 |

〈いちご(施設栽培)〉 ハダニ類

| 商品名 | RACコード | 時期 | 回数 | 使用方法 |
|-----------|--------|-----------|----|------|
| システムミヤコくん | | 発生直前～発生初期 | — | 放飼 |